



碧南ロータリークラブ週報

第2911回例会 令和元年5月22日(水)

- 会長 鈴木 健三
- 幹事 角谷 修
- 会場監督(SAA) 栗津 康之

2018-2019 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
- TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
- ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
- E-mail: info@hekinan-rc.jp



インスピレーションになるう

- 会報委員 岡本彰人・鈴木きよみ・小笠原良治・新美真司

●斉 唱

ロータリーソング「今日も楽し」

●本日のお弁当

大正館

●本日のお客様

中部大学経営情報学部 教授 辻村宏和様

●本日の卓上花

ガーベラ、スプレーカーネーション、スカビスオ、レザーファン

会 長 挨 拶

皆さん、こんにちは。

元号が平成から令和に変わって3週間が経ちましたが皆さん何かお変わりはあったでしょうか。私は今のところ、「10連休は長かったがたまにはいいな。」という感想しかなく、我が家のアジサイも元号が変わったからといって今年に限って早



鈴木健三会長

く咲くこともなく、相変わらず朝一人ぼっちで毎日水やりをしております。そんな寂しい時に本日の卓話の演題「『平成→令和』とトップ・マネジメント」という、私にとってはとてもタイムリーなテーマを目にすることができました。演題の中のマネジメントについては全くの素人ですが、平成から令和に元号が変わって、何か明確に変わったものがあったのか、なかったのか。はたまた、元号以外はほとんど何も変わっていないのかというぼんやりとした疑問を本日の卓話で少しは解消できるのかなと楽しみにしております。

本日の例会もよろしくお願ひ致します。

幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- ・ 例会変更のお知らせは、今週はございません。
- ・ (株) 梓書院 (福岡市) より、RI 第 2700 地区青少年奉仕委員会企画の漫画「ポール・ハリスものがたり」発行のお知らせが届いております。購入希望の方は事務局でお申し込みください。



角谷 修幹事

委 員 会 報 告

<出席奨励委員会>

総会員数 68 名 (内出席免除者 18 名の内出席者 12 名) 出席者 55 名	
出席対象者 55/62 名	出席率 88.71%
欠席者 13 名(病欠者 0 名)	前々回修正出席率 100%

※十週連続出席率 100%の場合は記念品を差し上げます。

<ニコボックス委員会>

- 長田 銑司君 ふたつの店共にいい知らせをいただきました。ありがとうございます。
- 清澤 聡之君 優美かつ厳格な葵祭りが無事終わりました。朝 6 時の集合から終了の夕方 6 時迄、1 2 時間の大役を娘が女人列の儀を務めさせていただきました。急きょ次男も白丁役にて牛車係りとして役めを務めさせていただきました。
- 山中 寛紀君 5 月 1 9 日日曜日、父寛三の誕生日にグランドホテルにて家族だけの食事会を行いました。奥津さんに大変お世話になり有難うございました。くれぐれも宜しくと父よりの伝言です。
- 大竹 密貴君 新美宗和さん、先日は大変お世話になりました。ありがとうございます。
- 杉浦 秀延君 本日の卓話講師、中部大学経営情報学部 教授 辻村宏和先生を紹介します。よろしくお願ひします。
- 石川 鋼逸君 本日、中部経済新聞に、おもいのシリーズ第 2 弾、おもいの鉄板の記事を掲載して頂きました。おもいのフライパンより焼き面の厚さを 1. 6 倍にし、さらにお肉がおいしく焼ける工夫をしてあります。またサイズも 2 8 c m と大きくし、カセットコンロ等を使いホットプレートの代わりとしても使えます。僕のおすすめは鉄板で焼く、お好み焼きです。

『平成→令和』とトップ・マネジメント」

中部大学経営情報学部 教授 辻村宏和様



辻村宏和様

ご紹介いただきました中部大学の辻村です。食事の後に講演するのは初めてのパターンでありまして、睡魔との戦いという気がしております。それとまた、内容についてプレッシャーをかけられまして、非常にしんどい思いが最初からあるということがございます。評論家の先生やジャーナリストの方のお話と違って、盛り上がるかどうかというのは毎回恐れている次第でございます。よろしくお付き合い願います。

受け狙いでテーマを『平成→令和』とトップ・マネジメント」にしましたが、副題の「悠久の126代皇位継承≡『会長－社長－大番頭』」の方が重要でございまして、この右辺が私の専門領域でございます。

現在、歴史ブームとよく言われます。歴史と言えば“点ではなく線”で理解するというのは当たり前の話で、言うなれば通史で理解するということです。つまり、人と人との繋がりを通じて理解するということなんですが、実は今、学校教育の歴史は線ではなく点で指導しているのです。私もそうでしたが高校時代の歴史の教科書はてんで面白くないということなんです。よって、もちろん文科省の検定には通らないですけども、できれば歴史というのは、人間の権力や権威への関心を教科書に盛り込めば面白くなります。何故かと言うと、実は哲学・心理学で明らかにされておまして、人間の最大自然感情は嫉妬なんです。それから、人間の最大の欲望は権力でございます。嫉妬と権力は必ずどんな人の集まりでも付いて回るので、これをぶち込めば大変歴史は面白くなります。尚且つ、面白くて興味深いから記憶度も高いということ。よって、教科書は願わくば「編年体<紀伝体」で書かれた方が良いということなんです。編年体というのは、点で理解しようとする歴史で、紀伝体はいわゆる人物を中心にしてそれにまつわるドロドロの関係を入れていくということ。全てとは言いませんけれども、そういうふうになっていた方が興味深いということ。高校の歴史の教科書の“行間”に本当は面白いことがあるんだけど消えちゃっているというやつです。あれをぶち込んだら、べらぼうに面白いということなんです。じゃあ、その消えているものは何かと言うと、それを入れちゃったら文科省の検定に通らず教科書になりませんが、1つは権力欲です。もう1つは金銭欲です。もう1つは性欲です。つまり、歴史の教科書は事実ではあるけれども、事実は権力欲、金銭欲、性欲まで入れないと真相には程遠いよということ。私は歴史学者ではございませんから偉そうなことは言えませんが、歴史はスパイ活動です。実は歴史の成功者はほとんどスパイを使っております。但し、スパイを使ったか、使わなかったかは失敗した時しかわかりませんから。上手くいっている場合は全くわかりませんから活躍が表に出ません。暗躍しているやつは必ずいて、数少ない失敗例が表に出るということ。そういう近づき方も私は経営者のストーリーで使っている次第でございます。

家系図を教科書はかなり無視しますが、ところがあの家系図を見ると今は違いますが、皇室のドロツとしたものがかなり見えてきます。家系図は横に膨らめば膨らむほどトラブルがたくさんあるという1つの証拠でもある訳でございます。というのは、歴史学者のみならず、私共の経営学の経営組織論が専門です。ですけれども、経営組織論者から歴史を通史で見ると、権威を確立する者、朝廷用語を使えば親政というやつです。自ら自分で政治をやるということもあれば、利権が出てきますから、世襲化に繋がります。はたまた、そういった権威を利用する者、この大きく2つに分かれます。利用しようとする者は誰かを擁立して摂関政、あるいはその反対の院政、これまた利権が発生しますから、共に着地点は世襲化したいということになります。これはある意味、人間の活路です。そこで参考までに釈迦に説法かもしれませんが、今回、平成天皇が上皇になりましたから、かつての白河上皇がそうでありましたように「上皇：権限>責任⇔天皇：権限<責任」ということであります。そうすると今日の副題にあります会長は時として院政を敷く。大番頭は時として側近政、つまり摂関政治を敷くことは十分あり得るということです。この絡みで歴史はずっと流れてきているということです。

悠久の126代皇位継承→「天皇＝最重要な日本史用語」という意味では、海外の国王でもない、皇帝でもない、非常に正体不明な万世一系とは言いませんけれども、いずれにせよ、世界に例を見ない1王朝のぶっ通しできています。大抵は前の王朝を壊滅させて次の王朝になります。ところが日本は、兎にも角にも、万世一系が本当かどうかというのは学会でも真っ二つです。まあ、そうでもないんですけどね。それは置いて、とりあえず形式上は万世一系できている。それが1王朝きているというのは大変なことです。そういう意味では、天皇というのは実は日本史の最重要専門用語ということでございます。しかし、日本の歴史は実は天皇が権力を握ることの少ない歴史だったんですね。要するに利用されるパターンが非常に多かったということです。

20年程前に我々は春日井を中心に後継者問題に差し掛かっている中小企業にアンケート調査をやらせてもらいました。色々な設問を入れておきましたが、聞きたい設問は1つしかありませんでした。その設問は「今、あなたの会社で社長の長男が後継者になるとしたら、どう思われますか？」というものでした。我々は恐らく6~7割はこの回答をしてくるだろうと仮設を作りました。蓋を開けてみたら有効回答数の9割弱が我々の予想通りでした。じゃあ、その回答選択肢は何かと言ったら、「あんなバカ息子のもとで」っていうやつです。圧倒的に回答が集中しました。本当にバカ息子もいたんでしょうけれども、中にはアメリカで大学院を卒業してMBAを持っているやつもいるんです。そういう意味では、本当にバカじゃないやつだってそういうふうに見られるということです。だから、親父さんの権威はそのまんまもらえないよという1つの教え、教訓ということでもあります。

無能経営者はダメです。何故かと言うと、摂関政治の危険性があります。バカだから利用されてしまうということです。じゃあ、有能経営者だったら良いのかということですが、一般論では○です。しかし、有能経営者であるが故に末期になってくると院政を敷きたくなるという欲求が出てくるということがあります。ですから、有能経営者は有能経営者でオールマイティーではないということが導き出せます。こういうことが起こるのはナチュラルでや

むを得ないですから、なるべく小さく抑えることが経営手腕で、我々、経営学者の着地点であります。

最後になりますが、格言としてお城に例えれば、「築城 3 年、落城 1 年」というやつです。あくまで例えです。3 と 1 というのは、意味はありません。これもご承知のことかと思いますが、「組織とかけて魚ととく、そのところはどちらも頭から腐る」というやつです。

ご清聴ありがとうございました。

次回例会案内

令和元年 6 月 5 日 (水)

卓話「私の履歴書」 会員 伊藤健児君、河原康浩君